

(案)

平成 27 年度
第 5 期中原区区民会議 第 5 回運営部会

日時 平成27年 9 月29日 (木) 14:30～
場所 中原区役所 5 階 505会議室

第5期中原区区民会議 第5回運営部会会議録

- 1 開催日時：平成27年9月29日（木）14:30～
- 2 場 所：中原区役所5階505会議室
- 3 出席者：板倉部会長、橋本副部会長、反町委員、成田委員、仁上委員、萩原委員【委員6名】
（欠席 中森委員）
（事務局）小野副区長、鈴木企画課長、江口係長、西山職員【企画課】
岩下さん【コンサルタント（㈱カイト）1名】

4 議題等

・会議録確認委員の選任

・議題

- （1）第5期区民会議審議テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいまちに～」について
- （2）第6回中原区区民会議について

5 傍聴者 なし

6 会議内容

・会議録確認委員の選任

会議録確認委員の選任について、前回から引き続き、名簿順で萩原委員を選任。

・第5期区民会議審議テーマ「地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに」について

まず、資料1「第5期区民会議審議テーマ『地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー～歩きやすいまちに～』論点整理」に基づき、課題調査部会の成田部会長から、8月3日（月）に開催された第5回部会、及び9月2日（水）に開催された第6回部会における検討状況や、主な意見等について報告された。

続いて、事務局から資料1右側の、当該部会における検討のポイントについての説明がなされた。

【意見交換】

萩原委員 区民会議で取り上げることは、まず一步前進であり賛成だが、区民会議で取り組む意義をどこまで出せるかがポイント。今までやっていることの回数を多くするだけでは埋没してしまうかな。何かと合わせてやるとか。今出ている提案の中で圧倒的に面白いなと思うのは自転車安全運転者証かと思う。これを区民会議の提案として、実現できれば面白いし、意義がある。楽しい証明書にして、子どもたちがとりたいたいと思えるようなものにできれば、素敵だと思う。サイクルの日と合わせて、自転車販売業者と組むのは役所的にはどうなのか。また、スタントマンなどの実演も告知を、何かできればよいと思う。

板倉部会長 自転車安全運転者証は、川崎市では小学校3年生くらいを対象に配布しているということだったか。

事務局 小学3年生が対象。学校等で講習を受けた児童に、カード型の「運転者証」と自転車に貼る「ステッカー（反射材入り）」を配布している。

萩原委員 この中原区版の作成が可能か。市の取組はあまり知られておらず、そのままでやるのでは面白くないと思う。

事務局 講習1回目の受講後には黄色、2回目以降は赤色のステッカーがもらえるようになっているなどの工夫はされている。

萩原委員 いい取組だと思うが、あまり周知されていない。中原区版の作成ができるとよいと思う。

成田委員 小学校3年生はほぼ全児童が受講しているが、保護者やその他の方には機会が無く、子どもたちの間でしか周知されていないという面がありそうである。

萩原委員 子どもたちに魅力的なものになっておらず、ただ、授業で行っているだけになっているのではないか。色はイエローカード、レッドカードがイメージされる。

事務局 ボーイスカウトでは、車の免許証とそっくりの物を独自に発行されていると聞いている。

萩原委員 それができたら素敵だと思う。ブームになるくらいのものをつくりたい。

事務局 課題調査部会には危機管理担当の職員にも出席いただいた際、その説明の中で、10年ほど前にこの自転車に関わる証明書の取組を始める際に「免許証」という名称も検討したが、警察が難色を示したと聞いている。どのような形が可能かどうかは、警察等との協議が必要となる。

成田委員 部会では、それを持っていることでメリットがあるとよいという意見が出ていた。例えば、自転車屋さんでパンクの修理など安くしてくれるなどである。

萩原委員 自転車業界には、業者団体があるのか。自転車保険の加入の際に割引などもできるといいと思う。

橋本委員 高齢者にこそ、交通安全教室を受講していただきたいと思う。

萩原委員 大人にも受講していただき、免許証を持っていたもらいたい。

成田委員 学校などを通じて学べる子どもはよい。大人こそ、ルール違反が多いという意見が部会でも出ていた。

仁上委員 「自転車安全運転者証」を初めて見た。知名度がまだまだ低いと思う。一般の人にいかにも知ってもらうか、知名度を高めることが必要である。講習を受けたという証明になる「ステッカー」をつけた自転車が増え、一般の人たちに知ってもらう形が望ましい。さらに保険の割引などの特典があれば、もっと浸透していくと思う。まず、今の「安全運転者証」の知名度を高めていく方策を、区民会議を通じて発信できればよいと思う。

1つ目のテーマの検討の際にも、町内会や老人会を通じて発信していく形が検討された。田中委員からは、「地域の老人会で自転車講習会をやろうという話がある」という声も出ていた。こうした取組が広がっていけばよいと思う。小学生だけでなく、高齢者にも持たせて欲しい。

よくトラックの後ろに「私は安全運転をしています」などのステッカーが貼ってあることが見受けられるが、貼ったままスピードを出しているトラックは無いように思う。同じような取組を自転車でもやってもおもしろいのではないか。

萩原委員 「あなたの自転車にはステッカーがついていないのか」というくらいの効果が出てくるとよい。

仁上委員 “無灯火では乗らない”などのステッカーを貼れば、本人にもプレッシャーになると思う。無灯火で走っている自転車に注意するのに勇気がいる。複数人で夜警している時などはよいが、一人ではなかなか注意できない。「無灯火させない」「自転車のルールを守らせる」プレッシャーを与えることも必要である。

反町委員 「区民会議でやることで、高められそうな取組」という視点で考えると、自転車安全運転者証の取組に親子で参加でき、家庭で会話になり、各家庭で意識が高まるような仕組みがよいと思う。現在の運転者証には川崎市と県警の名が表記されているが、区民会議でやるとしたら、オリジナリティをどこかで出したいところである。

「参加したい」と思えるような楽しい企画の中で、マナーを楽しく、正しく理解し習得してもらう仕組みが大切だと思う。イベントを何回、どのくらいの規模でやるのか、大変だと思うが。区民会議でやることで、タウンニュースなどのメディアに協力いただき、より広くPRしていくことができると思う。ぜひやってみたい。

また、参加することによるメリットも大事。ちょっとしたトラブルへの対応策などの講習が、自転車業界などと連携してできたら、話題になるかと思う。

萩原委員 警察の方も喜んで乗ってくる話になるのではないかな。警察とセットでなければ、意味がない。保険などの話は、新たなお客が来るきっかけになれば業者も乗ってくるだろう。警察に話してみてもどうか。

成田委員 「マナーを守った運転」だけでなく、「整備不良の自転車に乗らない」ということも事故防止につながる。整備・点検をちゃんとしている人は少ないと思う。

橋本委員 講習会の場に、自転車業界の団体や業者に来ていただき、簡単な整備を教えていただいてはどうか。

成田委員 その時に、先ほどのステッカーも貼れるとよい。

萩原委員 おしゃれで貼りたいくなるようなデザインで作っていただけるとよい。

成田委員 法律の改正などの際にルールを学ぶ場というものが、自転車には用意されていないと思う。小学校で学べばそれっきりというのが実態である。ここをどうするかということではないかと思う。

仁上委員 警察の方で事故の件数など定期的に発表されているのか。そういった情報が区民の耳に入ってくるようになると、働きかけになると思われる。今回も法改正があった6月は少し話題になっていたが、最近はまだあまり耳にしなくなったように思う。

事務局 参考資料2、部会の議事録の8ページに危機管理担当の発言が掲載されている。中原警察署に確認したところ、6月1日の道交法改正以降9月1日までの3か月間で456件の検挙数で、中原区は神奈川県下三番目の数、月100件以上ということだった。ただ、「中原区は自転車事故が多い」というイメージがあるようだが、全国的に見ると、さいたま、浜松、新潟市などの地方都市が最も自転車事故が多く、川崎市は政令市の中ではそれほど多い方ではない。平成27年度中に中原区では146件の自転車交通事故が発生しており、全交通事故に占める自転車事故の割合でいうと34.9%で市内7区中ワースト2位だが、人口あたりの件数は下から2番目。これに対し、例えば平塚市では、300件以上の自転車交通事故があったということになる。

仁上委員 悪いデータばかりでなく、よいデータを取り上げることに意味はあると思う。数字などはもっと一般に出す必要があるのではないかな。

事務局 中原警察署のホームページなどを見ていただくと、こうした数字も公開されている。また、区役所では「中原区交通安全対策協議会」という組織があり、年2回ほどの会議で、警察から事故の数や傾向などのお話をいただいている。

仁上委員 区内で事故が少ない地区や、多い地区などの情報まで発信できれば、もっと区民に身近に感じさせることができると思う。細かいデータの取得は難しいかと思うが。

成田委員 数字も大切だが、発生事故の内容の広報も必要である。例えば原因は何だったのか。無灯火だったのか、整備不良だったのか、あるいは歩道と車道の境の無い場所だったのかなど、そのあたりの理由が知りたいところだと思う。

事務局 どこまでそういった情報が把握されているのかは確認させていただく。

橋本委員 講習会は単独でやるのではなく、人が集まる何かの行事やイベントのときなどにできるとよいと思う。

反町委員 区民祭などかと思うが、スペースがなかなかない。区民祭では、自転車による来場数もすごいが、人が多すぎて新たな企画をやっても混乱しそうである。

板倉部会長 少し視点を変えてみたいと思うが、ベビーカーのマナーについて、私が調べた限りではインターネット上でも、あまり事例がないようだった。

萩原委員 最近のベビーカーは「乗っている赤ん坊の安全」を最重視してつくられているように思う。ベビーカーの交通トラブルで殴られたという事件がニュースにもなっていたが、複数台が横並びで通行されると他の人の迷惑になっている。

成田委員 10年前と今では、ベビーカーの機能が全く変わってしまっている。昔は地面から割と近いところに赤ん坊がいて、「コンパクトに畳む」ことを主眼に開発されていたが、最近では「子どもの安全性」が重視されており、生後1か月など、割と早い時期からベビーカーでお出かけする方が増えてきた。ベビーカーが重装備、大きくなる傾向にあるように思う。狭い道路だと2台でもいっぱいになってしまう。

萩原委員 以前だったら、だっこされていた赤ん坊が、ベビーカーの中にくるまれているということだろう。

橋本委員 駅付近の狭い道路などだと道がふさがれて、どうしても周囲に、ベビーカーを邪魔に感じてしまう方もいるかと思う。気持ちが分からないでもない。

萩原委員 お母さん同士でおしゃべりしながら通行している姿を見ると、もう少し気をつけてほしいなと思う。

成田委員 ベビーカーが多いのは小杉駅周辺の特徴かと思う。外から帰ってくるとびっくりするほどである。お店の中でもベビーカー。最近できた商業施設ではそのあたりも配慮されているが、昔からあるスーパーなどでは陳列棚とベビーカーの狭い間を他の人が歩けず、注意しているような風景を見かけたり、聞いたりすることがある。

萩原委員 お母さんたちが集まる会議で、注意や啓発ができないか。

板倉委員 乳幼児健診時は一つのチャンスだと思う。パンフレットなどの資料を配布するとしてら健診時だと思う。

萩原委員 自転車と一緒に、ベビーカーのマナーの啓発も兼ねた資料ができるとよい。自転車の資料はよく見かけるが、そこにベビーカーが入った資料は見ることがない。他の資料があれば、初めから作ると大変だから両者をうまく組み合わせるとよい。

成田委員 中原区らしい資料になりそう。

板倉委員 ただ、なかなか参考の資料が見つからない。事例がないのかもしれない。

萩原委員 それほど問題化していないということか。狭い店にはベビーカーでは行かないようにしようといったようになっているのかもしれない。小杉地域だとそうではないのかも。

成田委員 中原区だとベビーカーで買物に行ける距離に、みなさんお住まいということで、日常的に使っているのではないのか。

萩原委員 子どもを連れていける場所を中原区子育てイメージキャラクターのミミ、ケロが紹介

する冊子があったかと思う。同じような形で「ちょっと、ご注意」というような資料でもよいかもしれない。中原区はまだしばらくはベビーカーが増えそうだが、少したつと、今度はそれが自転車になるかと思う。数年後はもっと大変になるかもしれない。

板倉委員 ブレーキの無いストライダー、あれが増えると危険だと思う。

事務局 ストライダーは、ブレーキもペダルもなく、足で漕ぐわけだが、街中でも、小学生前くらいの子どもの利用するもので、最近増えている。結構流行している。

成田委員 キックボードもそうである。遊び道具としても使っている子どもが多くいる。

萩原委員 中原市民館の前でもボードに片足を乗せて通行している姿を見かける。危ない。

板倉委員 自転車に乗る前の訓練、バランス感覚を養うためのものだと思うが…。

萩原委員 注意喚起の資料の中にも入れられるかもしれない。サイクルの3月19日というのは何か可能性としてあるのか。いきなり区民会議で決めて、ずっとやり続けなければならなくなってもということもある。

成田委員 山崎委員がその場で語呂合わせで思いつかれての御発言だった。

板倉委員 素晴らしいと思う。

反町委員 ベビーカーのマナー喚起の印刷物はあまりないと思う。鉄道会社が出しているものは見たことがあるが、電車内のマナー限定だった。商業施設などでの表示も、あくまでエスカレーターの所に掲示されたエスカレーターの乗り方に関する注意喚起だったりする。ベビーカーのマナーをまとめた冊子が分かりやすい、かわいいものであるといいと思う。自転車とベビーカーとそれぞれに関係するものが半分ずつの資料ができれば、今までにないものになりそうである。

仁上委員 子育てサロンの講座の中で、ベビーカーのマナー講座などはこれまであったのか。

成田委員 ないと思う。

仁上委員 できると良いと思う。警察の方なども来ていただき、喚起できれば効果もあがりそうである。そして、いずれはママチャリに移行するだろうから、そのルールやマナーも教える。これも一つの方法である。

成田委員 「子どもと一緒に移動」という観点でまとめることができる。これまでは無かったと思う。確かに子どもが大きくなってくれば、今度はママチャリに乗せて、保育園の送り迎えなどの移動になるかと思う。

仁上委員 例えば「ベビーカーを押しながらのスマホは絶対やってはいけない」と徹底して教える必要がある。

成田委員 実際やってしまっている方が多い。

萩原委員 提案の実現に向けてのスケジュールはどうなっているのか。

事務局 参考資料4を御覧いただきたい。委員の皆様の任期は来年6月末までだが、3月末に最終の報告書を作成、4月に区長へ報告、5月に市民報告会というのが、現在予定されているスケジュールである。区民会議の役割として、基本的には区長への提案・提言までとされている。今期、一つ目のテーマについては、委員の皆様はその実現まで取り組んでいただいているが、二つ目のテーマについて、任期内に必ずしも具体的な取組を実施しなければならないということではない。

萩原委員 任期内でなくともその後の取組につながるのであれば、意味はあると思う。ただせつなくなので、5月の市民報告会で何か形にできるとよいと思う。そのためには、実現性の視点も重要。一つ目のテーマの延長戦上として、今回のテーマを捉えることもできる

ので、うまくつなげて違和感がない形も可能かと思う。

コンサルタント 参加のメリットについては、どことどんな連携し、どんなメリットが提供できるか、かなり調整が必要。具体的なアイデアはまだこれからかと思う。

ベビーカーのマナーについては、国交省の方で検討委員会が立ち上げられ、近年出された成果物があり、ホームページでも公開されている。特徴としては、子育ての親子を大切にしたい、ベビーカーの利用者側ばかりにマナーを押し付けたくないという配慮から、ベビーカー側への注意喚起だけでなく、周りの人、一般の方に対しての注意や配慮を喚起する資料となっていたかと思う。

板倉委員 いつごろの資料か。

コンサルタント 最近の資料である。委員会形式で有識者も参加した形だったかと思う。成果物としては、ポスターやチラシがあり、皆さんが鉄道駅などで御覧になったことがあるものかもしれない。

最近では安田サーカスというグループの団長が自転車事故で大けがをしたとか、海外ではU2というロックバンドのギタリストが自転車事故で大けがをし、二度とギターが弾けないかもしれないといったニュースも話題になっていた。

サイクルの日、3月19日は良いアイデアだと思うが、3月は年度末でいろいろと忙しく、行事も多い時期。例えば、20日を二輪の日として、毎月、または時々啓発するような形も考えられるかと思う。

課題調査部会では商店街の駐輪や商品の路上陳列、コミュニティバスなどに関する発言も出ているが、運営部会の意見としては、啓発の仕組みに焦点を絞るという形でよいのか。

乳幼児健診の場で啓発というのは、子育て中の親の参加率がかなり高い場なので、よろしいのではないかと思う。

今後は事務局として、具体的な取組事例を集めて提供することでより具体的な検討の参考になればと考えている。

橋本委員 キャノンの協力をいただいて、写真を撮って運転者証に貼るなどできるとよいと思う。区民祭や地域のイベントでも例がある。後でここに写真を貼るようにといってもなかなか貼らないと思う。

萩原委員 警察との調整で可能なやり方があれば、それに向かって進めていく。自転車業者で交通安全協会やロータリークラブの活動などに参加されている方もいらっしゃるの、そちらの方にも働きかけてみたい。

コンサルタント 課題調査部会ではボーイスカウトの取組の話がかなり出ていたと思う。

萩原委員 その話を中原警察署の交通課長さんにしたら、喜んでいた。

コンサルタント ボーイスカウト独自でやっていらっしゃるようだが、親や保護者も子どもたちに同伴していたり、自転車業者が来て整備の仕方の指導などもしているとのことである。研修を受けて、認定されないとボーイスカウトの集會に自転車ではいけないといった指導もされている。参考になるかもしれない。

板倉委員 自動車の免許証とかなり近いイメージとを感じるが、警察が公式に関わってくる場合はそこまでできるのか。

萩原委員 だからこそ、中原区や中原警察署と一緒にできると意義が高いと思う。

コンサルタント 例えば、自転車のブレーキパッドも運転している中で擦り減ってくるし、その消耗具

合は、急停止ができるかどうかにも関わってくる。自転車の整備状況は、事故の防止にもつながると思う。

萩原委員 みんなでやっていこう、それぞれできることをやっていこうという方向性で示すことができれば、反対する人や団体はいないと思う。

事務局 一昨日の日曜日、区内で、自転車の中学校1年生が市営バスに轢かれて即死するという痛ましい事故があった。

反町委員 JR向河原駅の近く、南武沿線道路で、私は直後に近くを通りかかったが、騒然としていた。見た瞬間にひどさが分かる事故だった。

事務局 友達4人で映画を見た帰りに、靴紐が絡まって自転車を停止し、紐をほどこうとした時に倒れてしまった。そこにバスが来てしまったと聞いている。

萩原委員 そうした事故は、マナーがどうこうという原因ではない。

成田委員 歩道と車道の環境など、状況にもよるかと思う。あの近辺は路肩に駐車している自動車なども多く、危険なところが多い。

萩原委員 自転車に乗る前に靴紐をしっかり結んでおくということも、注意喚起できることであり、大事なことである。

コンサルタント マフラーや靴紐が、車輪に絡まるケースは原付自動車や自転車について時々聞いている。

成田委員 自転車に乗る時の服装も重要。ひらひらしたものやロングスカートなどが引っかかることもある。

コンサルタント 自転車は軽車両。その意識を持ってもらうためには、車両と同じように捉えた取組も必要なのかもしれない。“免許証”は難しいかもしれないが、車にあるものを自転車に導入する。若葉マーク、「安全運転しています」ステッカー、駐車場マークなど。これを中原区の独自性を加えて広報していければ、ユニークな取組として話題にもなるかと思う。街なかの「P」マークは駐車場というのは一般に認知されているが、それに該当する自転車が停められる場所というマークはない。

板倉委員 自転車は車検がないから。

コンサルタント ただ、整備は必要である。

板倉委員 そのとおりである。きちんと整備していれば、事故の危険性が減る。

コンサルタント 駐輪についての意見交換の際には、最近の自転車は、駐輪のためのスタンドがついていないような自転車も増えているとの意見があった。

板倉委員 環境の未整備についてはどうか。自転車の通行帯をつくれといってもそう簡単にはいかないわけだが、何か提案はあるか。

萩原委員 自転車通行帯の整備や案内の充実はどこの役割なのか。

事務局 基本的には市の役割であり、区役所道路公園センターや建設緑政局で整備しているところである。国道など、国が直轄管理している道路は除外される。

事務局 自転車通行帯をつくりたくても、道路全体の幅員や周辺環境などで不可能なケースもある。

萩原委員 そういう場所であれば、説明があればよいと思う。

コンサルタント 行政も何もしていないわけではなく、少しずつ充実させていく方向で動いている。

事務局 綱島街道で途中までは青い矢印があるが、途中で途切れている。409号線を幸区方面に行くところの通行帯も中原生活環境事務所あたりで途切れているといった御指摘だっ

た。平和公園付近は整備計画があり、今年度工事を行っているが、どうしても一気にできるわけではなく、順次ということになる。予算や地権者との合意形成など可能な範囲で少しずつ進めていると聞いている。課題調査部会でも現状の説明はさせていただいた。

萩原委員 バスの話はどのような話だったのか。

事務局 松本委員を中心に、井田病院に行くルートについて、井田地域の中を通るルートがあるとよいのではないか、といったお話だった。

萩原委員 国際交流センターの前を通る路線が欲しい、小杉地区と井田病院の間は、この付近にお住いの年配の方の足が無い、という話は私も聞いたことがある。

橋本委員 近くに高齢者施設もあり、駅からは少し離れたところである。

事務局 区民車座集会で同内容の質問があったと記憶している。付近に聴覚障害者情報センターなどもあり必要性は認められているが、市バスや臨港バスが通るには道路の幅員が足りず、実現が難しいというお話をさせていただいた。ミニバスは通れるが、それでは採算が取れないということになる。徒歩5分ほど、離れた所にバス停があるが、昼間は運行本数も少ないということで御要望いただいていることは理解している。

萩原委員 井田病院直行のバスには、ミニバスもあったように思う。

橋本委員 30分に1本で運行されている。

事務局 病院局が走らせている車両で、法政二高付近なども通るルートになっている。比較的細い道路も通っているが、交通事業者としての許可を得たものではなく、あくまで病院利用者を運ぶ送迎バスである。簡単には、現状の路線バスと比較できない。

コンサルタント バス路線などの環境整備について、部会では、「現状や課題など情報を整理し、報告書に検討経過を残す」という確認はされたが、区民会議の提案として主な取組提案に据えて、働きかけ、実現を目指すことは難しいということだったかと思う。議会の方に地元住民の方からの陳情もされているということだった。

萩原委員 実現は難しいが、折に触れてアピールしていくことは重要である。

成田委員 中原区は自転車盗難も多い地域。自転車の施錠なども自転車利用の上での注意事項としてアピールしてよいかと思う。鍵等が売れるのであれば、自転車業者の利益にもつながる観点である。

橋本委員 ブレーキの話も業者さんが見てくれる場があればよいと思う。

萩原委員 ビジネスに繋がる話になれば良い。さっそく動けると良い。

コンサルタント 根回しというか、どこまでできるかは早めに交渉していく必要はあるが、運営部会で進められることではない。

板倉委員 啓発看板というのはどのような意見だったか。

コンサルタント 街中などに掲出するというような御意見だったと思う。

萩原委員 放置自転車の多い場所などか。それぞれ場所によって、所有権などの調整が必要になる。

板倉委員 まちづくり推進委員会では子どもたちのマナーアップポスター作品を10年分ほどデータ化して、ストックしている。自転車のマナーを扱った作品もあるので、これらを活用することもできる。貼る場所と管理者さえ見つければ、古くなったら捨てていただいてもよいので、実現できるかと思う。

事務局 今、回覧している新聞記事は川崎区東門前の小学校で、子どもたちの書いた啓発ポスターを路面上に貼りつけた例である。1枚数万円の費用がかかるようである。こうした

ものを路面に貼ると心理的な抑制効果があるように聞いている。

萩原委員 上を普通に歩けるのか。

事務局 そのとおりである。

コンサルタント デザインによっては結構汚れが目立ってしまうこともある。地面に貼られている横断歩道や交通規制サインと同じような形式である。

萩原委員 学校の近くだから良い取組になったのだと思う。場所によってはかえって邪魔になることもありそう。中原区でも良い場所が見つけれられるといい。駅などでも貼っても良いかと思う。お願いに行かなければならないが。

・第6回中原区区民会議について

資料2に基づき、第6回中原区区民会議の次第、進め方等について確認した。

7 その他

- ・参考資料4に基づき、区民会議の今後のスケジュール案、一つ目のテーマの取組状況・予定等について確認。
- ・参考資料5に基づき、平成27年度区民会議交流会の開催について説明し、今後出席者の確認等を行うことを御案内。
- ・次回、運営部会について、改めて日程調整することを確認。

8 閉会

以上により、すべての議題等を終了

以上